野辺地町勢要覧

笑顔あふれるまち

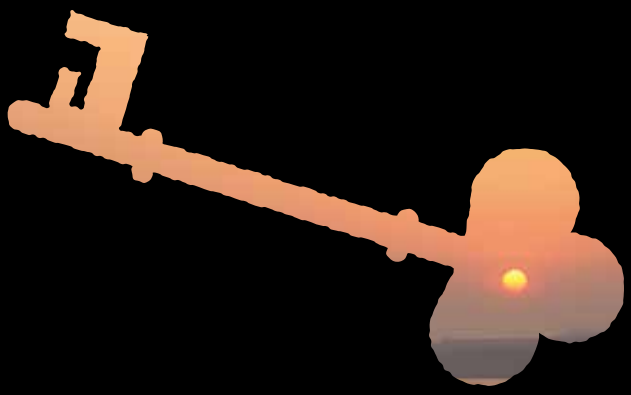
のへじ

NOHEJI TOWN GUIDE 2017

contents

02 町長あいさつ
町の花・鳥・木
03 町の概要
04 巻頭特集　野辺地町と北前船
北前船の一大寄港地として栄えたまち　野辺地
06 北前船がもたらした上方文化
08 受け継がれる野辺地町の歴史
10 野辺地町の産業と暮らし
12 野辺地町の１年
14 私的野辺地町　春夏編
16 私的野辺地町　秋冬編
18 「笑顔あふれるまち のへじ」の実現へ向けて
郷土の生業を創る
20 郷土の住みやすさを実現する
21 郷土の人の生命と暮らしを守る
22 郷土の人の身体と心を守る
24 郷土をますます愛し育む「人財」を育てる
26 郷土づくりを進める組織とシステムを創る
28 野辺地町資料編
野辺地町 120 年の歩み
33 名誉町民
34 NOHEJI DATA FILE
人口・世帯
教育
35 財政
36 産業
37 福祉
生活環境
防災・交通
38 野辺地町 MAP
40 野辺地町　町章・キャラクター・アクセス・
野辺地町町民憲章・野辺地町民歌

のへじまちを
のぞいてみよう！



町長あいさつ

野辺地町長　中谷　純逸

野辺地町は明治30年８月28日の町制施行から、平成29年で120年を迎えます。このことは、町民をはじめ、町政の発展・推進に関係してこられた皆様方の御支援、御協力の賜物と心から感謝を申し上げます。

現在当町では、人口減少・少子高齢化等の課題克服のため「第５次野辺地町まちづくり総合計画後期基本計画」で定める「はつらつとした笑顔あふれる協働のまちづくり」「人と自然が響きあうまちづくり」「歴史と伝統の知恵を引き継ぐまちづくり」の三つの基本理念のもと、将来像である「笑顔あふれるまち のへじ」の実現を目指しております。

この町勢要覧は、当町の自然、歴史をはじめ、町における課題克服と将来像の実現に向けた諸施策の概要を取りまとめたものです。

今後も町の将来を見つめ、先人たちが築き培ってこられたこのすばらしいふるさと野辺地をさらに発展させ、次世代に引き継ぐことが私たちの責務と考えておりますので、皆様のより一層の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

町の花　はまなす

町の鳥　かもめ

町の木　さくら

120
野辺地町 町制施行120周年

町の概要

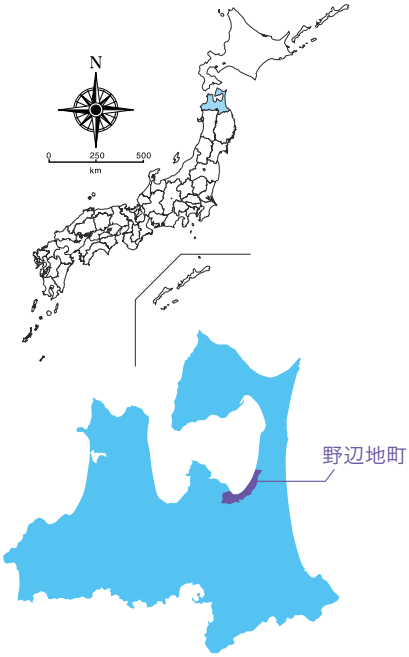
野辺地町は、青森県の下北半島の付け根に位置しています。北西部には陸奥湾を抱き、西には烏帽子岳を背負い、南には八甲田の山々も望むことができます。

かつては北前船の寄港地として栄えた湊町としての歴史があり、祇園まつりや郷土料理など当時の文化が今も大切に伝えられています。

春は桜やヒバ、ブナの新緑。夏はヤマセによる冷涼な気候で過ごしやすく穏やかな陸奥湾で海水浴。秋は烏帽子岳の紅葉。そして冬はスキーなどウィンタースポーツが盛んです。

その豊かな風土は、ホタテやこかぶ、トゲクリガニなどの深い味わいの特産物の数々をもたらしてくれます。

野辺地町は、四季のうつろいを強く感じられる自然豊かで、歴史と文化に育まれた町です。



面　積		81.68㎢	広ぼう	東西 18.5km　南北 15.8km
方　位	東経	東端　141度16分	西端　141度03分	
	北緯	南端　40度50分	北端　40度58分	
町役場住所		青森県上北郡野辺地町字野辺地123番地1		

北前船の一大寄港地として栄えたまち 野辺地

北前船は、日本海海運の主力となった廻船

北前船は、大坂（大阪）を起点として、日本海沿岸の港に寄港しながら蝦夷地（北海道）まで年一往復で結び、各地で物資を売り買いして利益を上げる買積船として活躍した船であり、野辺地湊にも各地方の物産が運ばれてきました。

復元北前型弁才船「みちのく丸」は、日本古来の和船の建造技術や歴史を後世に伝えるために、船大工16人によって建造された、全長32m・全幅8.5m・帆柱の高さ28mの復元船です。

平成17年に完成し、平成23年には日本海文化交流事業において10道県14港を就航したほか、平成25年には東日本大震災復興支援として5都道府県8港を就航するなどの活躍をしました。

町は、北前船の一大寄港地として栄えた歴史と文化を持つことから、平成26年に「みちのく丸」の譲渡を受けました。「みちのく丸」は、平成29年5月公開の映画「たたら侍」やドラマなどにも使用されており、今後も地域振興に寄与することが期待されます。

野辺地湊と北前船

古くから交通の要衝だった野辺地町。その理由は湊にありました。

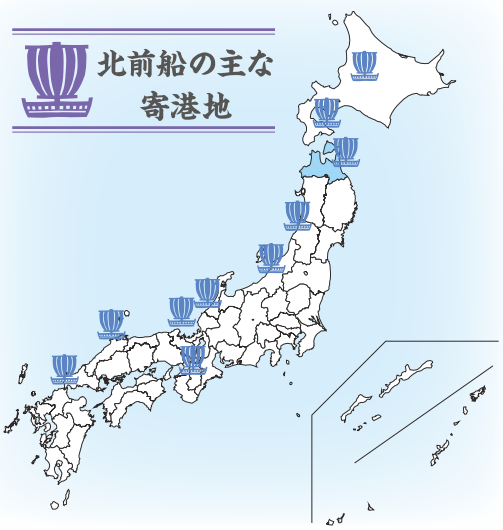
文禄（1590年代）の頃、南部藩祖信直の書状に「野辺地横浜で蝦夷船をたくさんつくり米を積み入れた」という記録が残っており、その頃から野辺地は湊としての機能を持っていました。

江戸時代になると海運網が整備され、各地の産物が経済の中心地である大坂（大阪）に運ばれるようになりました。17世紀中頃には野辺地湊へ蝦夷地（北海道）の松前から商船が訪れていたことが記録にあり、その後も湊からは大豆や材木などが積み出されていました。明和2年（1765）に盛岡藩は尾去沢鉱山を藩の直営とし、翌年からこの鉱山の銅を野辺地湊から大坂に向けて積み出すようになりました。この銅を輸送した船では、領内の大豆や魚肥（イワシ粕）もあわせて積み出し、野辺地は湊町として急速に発展したことが知られています。

野村治三郎家や野坂勘左衛門家など、野辺地の北前船主の船は野辺地湊から大豆や魚肥を積んで出航し、青森湊では米を、松前ではニシンの魚肥を買い入れて兵庫や大坂などで売り払い、帰りには木綿や古着、塩などを買い入れていました。また、五十嵐家が所有している船の宿帳である客船帳を見ると、蝦夷地、日本海沿岸、瀬戸内、大坂などから多くの北前船が野辺地湊に訪れている様子を知ることができます。

このような北前船による交易によって茶粥やけいらんなどの食文化が伝わり、また町内には浜町の常夜燈をはじめとする石造物が数多く残されています。

1 復元北前型弁才船「みちのく丸」
2 客船帳（町指定有形文化財）
3 常夜燈とみちのく丸



北前船がもたらした上方文化

1

2

3

4

5

6

のへじ祇園まつりは、京都祇園祭の流れを汲んだとされる優雅な囃子と山車の祭です。盛岡藩有数の商港として栄えた時代に北前船によって移入されたと伝えられています。

山車は2階層造りで、1階には艶やかに着飾った稚児が奏でる優雅な祇園囃子、2階には歌舞伎や古事を題材とした豪華絢爛な山車人形が彩られます。

祭は、宵宮祭（前夜祭）、初日、中日、最終日の4日間にわたって開催されます。宵宮祭の日に行われる、長さ11m・重さ400貫（1.5t）の大しめ縄を八幡宮に奉納する「しめあげ」を皮切りに、初日は人形や装飾がライトアップされる夜間山車合同運行、中日には海で栄えた野辺地ならではの船の大パレード「海上渡御」、最終日には再び山車が町を練り歩き、町を祭り一色へと染め上げます。

囃子は、山車の1階で奏でられる祇園囃子と、山車の先導として演じられる神楽と呼ばれるものがあります。祇園囃子は、笛・三味線の囃子に合わせて、白拍子の装束を身に着けた女の子が優雅な太鼓のバチさばきを披露します。「渡り」「剣」「楽」「祇園」「夜神楽」の5曲が残されており、代々町内の子どもたちによって伝承されています。神楽は、太鼓打ち（占め太鼓、大・小）、手平鉦、笛で奏でられ、神楽・杓子舞・きつね舞という演目があります。

1 2 3 のへじ祇園まつり　4 郷土料理　5 愛宕公園の石段
6 海上渡御　7 常夜燈

郷土料理は、精進料理を基本とし、それに野辺地独特の食材を加味して完成したものだと言われています。

① 茶粥	カワラケツメイという野草を煎じたお茶で炊いたおかゆで「チャゲッコ」とも呼ばれています。
② 菊のサラッコ	青森県特産品の食用菊をクルミであえた精進料理です。
③ 寄せ豆腐	寄せ豆腐と呼ばれる豆腐に椎茸などの出汁に醤油と片栗粉でとろみをつけたすまし汁です。
④ けいらん	そうめんの上に餡入りの餅をのせ、すまし汁をかけ、三つ葉を散らした汁椀です。
⑤ 精進うなぎ	豆腐をウナギに見立てて、のりを巻き醤油で味付けして揚げた精進料理です。
⑥ 煮和え	豆腐をつぶしながら油でいため、大根や人参などの野菜を加えて煮和えて作ったもので「ニエッコ」とも呼ばれています。

宕公園の石段はかつては本町通りに敷かれていました。もともとは船を安定させるために船底に積んでいたものです。地元研究者の調査により北前船で瀬戸内海小豆島の土庄から運んできたものであることがわかりました。このことから、愛宕公園と大坂城残石記念公園（香川県土庄町）は平成22年に友好公園を締結し、交流を行っています。

夜燈は夜間航行する北前船への目印とするため、文政10年（1827）に野村治三郎家によって建てられました。瀬戸内海塩飽諸島の商人橘屋吉五郎の所有する船、八幡丸によって運ばれてきました。

7

受け継がれる野辺地町の歴史

1 旧野村家住宅離れ「行在所」（国登録有形文化財・建造物）

2 赤漆塗木鉢（国指定重要文化財）
向田（18）遺跡から出土した縄文時代前期の木鉢。長径46ｃｍと国内でも例をみない大きさ

3 板状立脚土偶（国指定重要文化財）
縄文時代後期前半のものとされる一人立ちする土偶

4 松尾芭蕉の句碑
文政12年（1829）に町内の俳人達によって建てられた碑

5 藩境塚（県史跡）
通称・四ツ森。江戸時代に南部領と津軽領の境界の目印として築かれた土盛りの塚

6 日本最古の鉄道防雪林

大学では古代史を専攻。高校教員を定年退職後、郷土史研究に。古文書「野辺地官所雑記」等、文面から当時の様子を深く読み解く。

野辺地は歴史の宝が詰まっています。縄文時代の遺跡や、盛岡藩と津軽藩の境に位置したために置かれた代官所での古文書など、面白い資料がたくさんあります。そして海からの資産、北前船で運ばれた文化も。過去を知ることでいろいろなことが見えてきます。次世代、特に若い人たちに伝えていきたいですね。

のへじ人・顔

野辺地町歴史を探る会会長
鈴木幹人さん

野辺地町の歴史

野辺地の歴史は少なくとも1万5千年前にさかのぼることができます。町内には100か所以上の縄文時代の遺跡があり、海・山・川のある豊かな環境のもとで、自然とともにある暮らしが1万年以上も続いていました。遺跡からは多くの遺物が出土しており、このうち縄文時代前期（約5千年前）の国指定重要文化財「赤漆塗木鉢」は、突起の上面に巻貝の蓋を貼りつけて装飾しており、後の螺鈿（らでん）技法を思わせる高度な技術でつくられた漆工芸品です。また、縄文時代後期（約3千5百年前）の国指定重要文化財「板状立脚土偶」は、板状の胴部に太い両脚をつけて立たせようとした大型の土偶で、それまでの時代の板状土偶から立像土偶への移り変わりを示しています。

「野辺地」という地名がはじめて記録に見られるのは、建武2年（1335）のことです。後醍醐天皇により奥羽に派遣された北畠顕家の書状に見られます。

戦国時代には、津軽氏が南部氏から独立したことにより、現在の青森県の西半分が津軽氏の領土となると、南部氏にとって野辺地は軍事上重要な地域となりました。江戸時代の南部領と津軽領の境には「藩境塚」（県史跡）が築かれ、藩境近くの番所では人や物資の出入りを取り締まっていました。

江戸時代中頃になると各地の特産物が船で運ばれるようになります。蝦夷地（北海道）と大坂（大阪）の間の日本海や瀬戸内海を航海し、各地の特産物の売買を行っていた北前船が盛岡藩の北の玄関口である野辺地湊にも訪れるようになりました。湊では様々な特産物が取引きされ、野辺地の商人も北前船を所有するようになり、中でも野村治三郎家は江戸時代から明治中頃にかけて5艘前後を所有し続けた北東北を代表する船主でした。

浜町の常夜燈をはじめ町内に数多く残されている石造物は、北前船で運ばれてきたもので、今も大事に残されています。

明治元年（1868）の戊辰戦争の際、最終的に旧幕府軍を支持することになった盛岡藩・八戸藩と新政府軍を支持することになった弘前藩・黒石藩が9月に野辺地で戦いました。この戦いは、戊辰戦争では唯一青森県内で起きた武力衝突であり、多くの犠牲者を出した弘前藩の兵士の墓石が「野辺地戦争戦死者の墓所」（県史跡）に残されています。野辺地に響いた砲声は、新しい時代の夜明けを告げるものでした。

明治9年（1876）には、明治天皇の奥羽御巡幸があり、これに備えて野村治三郎家では自宅敷地内に天皇の宿泊所である行在所（国登録有形文化財「旧野村家住宅離れ」）を建てました。この建物は明治23年（1890）の大火で焼失し、現在の建物は同一設計で再建されたものです。

明治22年（1889）、市制・町村制の施行により野辺地村・馬門村・有戸村は野辺地村となり、明治30年（1897）には町制を施行しました。

日本鉄道株式会社による盛岡-青森間の鉄道が開通したのは明治24年（1891）のことです。しかし、当初から豪雪に悩まされたため、ドイツ留学から帰国した林学博士の本多静六氏の提言により鉄道防雪林が明治26年（1893）から植えられるようになりました。野辺地駅構内には、わが国最初の鉄道防雪林が現在も広がっています。本多博士の出身地である埼玉県久喜市と野辺地町は、これを縁に友好都市を締結し交流を行っています。

また、野辺地では明治以降、教育の向上にも熱意を傾け、明治6年（1873）の野辺地小学校開校や大正15年（1926）の県立野辺地中学校の開校などにより、多くの人材を輩出してきました。

野辺地町の産業と暮らし

野辺地町の平成27年の就業人口は6,284人です。農業や漁業などの第1次産業の割合は8%、建設業・製造業などの第2次産業は25%、卸売・小売・サービス業などの第3次産業の割合は66%を占めています。

古くから交通の要衝として栄えた歴史があり、物流の重要な役割を果たしてきたことなどから、地元のみならず、近隣町村の購買力を背景とした複数の商店街が形成されています。

陸奥湾に面した町らしく、漁業も盛んで、大粒で口当たりまろやかな「ホタテ」が有名です。特に「ぢまきほたて」は身が引き締まり、さっぱりとした甘さが特徴で、全国的に高い評価を受けています。このほか、4月～6月に旬を迎える「トゲクリガニ」や正月料理に欠かせない「なまこ」などが特産品です。

また、この地方特有の冷涼な気候をもたらすヤマセは、「こかぶ」「ながいも」などの農産物を育てるのに適しています。「こかぶ」は「野辺地葉つきこかぶ」としてブランド化され、フルーツのような甘味と柔らかい食感が特徴で、生でも食べることができます。

1「のへじ活き活き常夜燈市場」などで販売されている町の特産品　2 4月～6月が旬の「トゲクリガニ」。「花見ガニ」とも呼ばれる　3 陸奥湾育ちの大粒な「活ほたて」

のへじ人・顔

野辺地町漁業協同組合
代表理事組合長
山縣勝彦さん

就任したてのフレッシュな組合長。湾内の養殖ホタテ、ぢまきほたて、なまこを主に生産。水揚げの9割をホタテが占める。東青漁業士会の指導漁業士。

祖父、父と三代続く漁業経営。キャリアは長いですね。加工員の生産が主な団体が多い中、野辺地の漁協組合は早くから「活貝」をメインにしてきました。甘みと高い栄養価が自慢の湾内産のホタテは、大手スーパーへの卸しも10年来となり、「野辺地ブランド」が確立されています。今の漁業は、昔より機械化され作業効率も良く、働く手応えを感じられる産業。若手をもっと育てたいですね。

のへじ人・顔

東京で電気関係の仕事につき5年、Uターン後、実家の農業経営に。夏冷涼な野辺地の気候に合った「葉つきこかぶ」を主に生産。

「野辺地葉つきこかぶ」の魅力はつやつや真っ白な見た目と、実も葉も全て食べられるところ。とにかく「美味しい」と言ってもらえることが嬉しい。5月から10月の6か月、早朝（ほぼ真夜中）からの作業はキツイこともあるけれど、収益も良く、休みも取れるので従事しやすい。夏場収穫のない関東方面へ流通するので、今後も十分期待できる産業。後継者不足なので、若い人にこそ勧めたいですね。

4 耳吊り作業の様子　5 シャキシャキとした歯ごたえと粘りが特徴の「ながいも」。11月～12月が旬　6 「野辺地葉つきこかぶ」の収穫作業の様子
7 皮が薄く手でむける、甘味が特徴の「野辺地葉つきこかぶ」。6月～11月が旬

のへじ人・顔

JAゆうき青森
野菜振興会こかぶ部会　部会長
田村敬一さん

平成29年で立ち上げから50年を迎える商工会女性部。現在44人の会員が個々の事業と町の発展のため、女性目線を大切に活動。産直施設に並ぶ数々の商品を開発。

地元の食材を使ったオリジナルのお菓子や惣菜を考案。町の「顔」になる商品を目標に、日々アイディアを出しています。野辺地町には、古く上方文化の影響を受けた「茶粥」「けいらん」などの郷土料理があります。「味」の歴史を絶やさないためにも、女性部では料理研究を重ね、毎年「郷土の味を楽しむ会」を開催。苦労はありますが、一致団結する一体感があり、楽しみながら、食の知識を深めています。

野辺地町商工会
女性部女性部長　熊谷美津子さん（左）
副部長　村中久美子さん（右）

野辺地町の1年
イベントスケジュール

チェック！
イベント！

4月

のへじ春まつり　【4月下旬～5月上旬】

陸奥湾を望む桜の景勝地、愛宕公園を会場とし、約700本もの桜が一斉に咲き誇る中、ステージショーやホタテ駅伝が行われます。

4月

柴崎地区健康レクリエーション施設【4月下旬～10月】

陸奥湾を眼下に望む抜群のロケーションが自慢の自然豊かな観光施設です。敷地内には、宿泊研修施設やキャンプ場、バンガロー、パークゴルフ場などが整備されており、家族やグループで楽しむことができます。

5月

常夜燈みなと祭り　【5月中旬～6月中旬】

常夜燈公園隣で行われる「常夜燈みなと祭り」は、地元漁協による「ぢまきほたて」「トゲクリガニ」など海産物の特売や特産品の販売など各種催しが行われます。

6月

烏帽子岳　【6月中旬～10月】

標高719.6m。高度とともに変化する亜高山植物が多く見られ、頂上から望む大パノラマは別世界。勾配が緩く登りやすいので、家族での登山も楽しむことができます。また、毎年初夏には山頂にある烏帽子神社で、1年の登山者の安全祈願が行われます。

7月

のへじ常夜燈フェスタ　【7月下旬】

野辺地湾が目の前に広がるのへじ潮騒公園で開催される「のへじ常夜燈フェスタ」。特産品のテント市が軒を並べるほか、多彩なステージショーが行われ、毎年大勢の来場者で賑わいます。

7月

ハッチョウトンボ観察会【7月上旬】

国設野辺地まかど温泉スキー場で行われる、ハッチョウトンボ観察会では、絶滅が危惧される体長約2㎝の日本一小さいトンボ「ハッチョウトンボ」や、珍しい生物を観察することができます。

7月

のへじ花火大会【7月下旬】

野辺地町の短い夏を飾る花火大会は、夜空と野辺地湾を華やかに彩ります。

2月

のへじ停車場ランタンまつり
【2月上旬】

野辺地駅に隣接した観光物産PRセンター前の広場で行われる雪を活用したイベント。雪で作ったランタンに灯りがともされると、幻想的で旅愁誘う雰囲気が漂います。

1月

各種スキー大会
【1月中旬～3月上旬】

スキー発祥の地碑がある「あったかハウスまかどの森」を拠点として各種スキー大会が盛んに行われます。

12月

国設野辺地まかど温泉スキー場
【12月下旬～3月中旬】

遠くに下北半島を望む陸奥湾の大パノラマへ滑り込むような壮快なスキーが楽しめます。起伏に富んだコースながら、ファミリーゲレンデも完備し、初心者から上級者まで楽しむことができます。また、クロスカントリーコースも一般開放しており、自然の中での体力トレーニングに最適です。

10月

郷土の味を楽しむ会
【10月上旬】

祇園囃子の音色を聴きながら、町の郷土料理「茶粥」や「けいらん」などがふるまわれます。毎年すぐに定員になる好評のイベントです。

9月

ずっぱどわっかど産業まつり
【9月中旬】

野辺地町の方言で「とてもたくさん」という意味の「ずっぱどわっかど」。その名のとおり、町や近隣市町村の特産品の販売や催しなどが盛りだくさんのイベントです。

特産品販売！

ずっぱど！

10月

野辺地町文化祭
【10月下旬～11月上旬】

みんなの教室・サークルの加入団体などが趣向を凝らしたステージ発表や作品展示を披露します。

8月

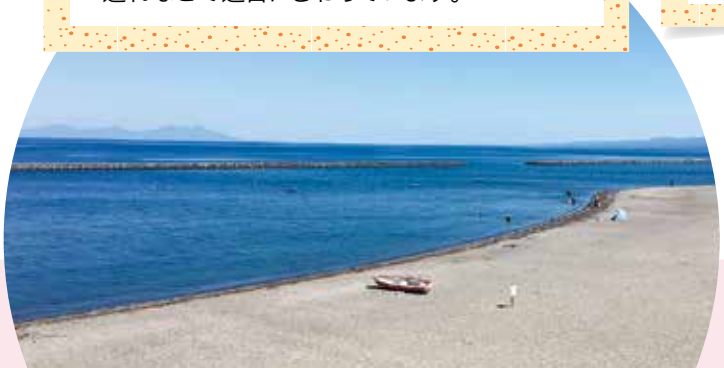
のへじ祇園まつり　【8月中旬】

艶やかに着飾った稚児たちが、優雅な祇園囃子を奏で、豪華絢爛な山車が町内を練り歩きます。宵宮祭（前夜祭）での大しめ縄の奉納を皮切りに、初日の夜間山車合同運行、中日の「海上渡御」、最終日には再び山車運行が行われ、町を祭り一色へと染め上げます。

7月

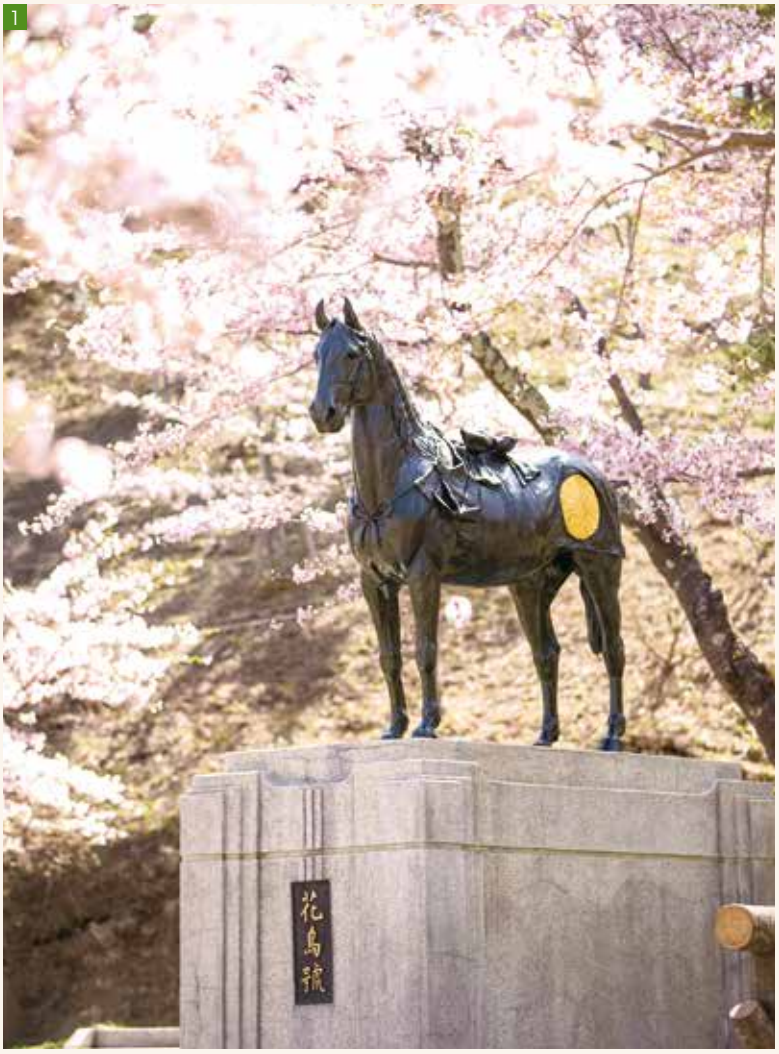
十符ヶ浦海水浴場【7月中旬～8月中旬】

野辺地海浜公園にある十符ヶ浦海水浴場は、遠浅の上、波も静かで海水浴には良好な条件を備えています。陸奥湾に面した広い砂浜からは遠く下北半島も眺められ、贅沢な開放感を味わうことができ、シーズン中は家族連れなどで連日にぎわっています。



祭り！

海！山！



私的野辺地町 春・

1 春の花鳥號（愛宕公園）　2 夕暮れの烏帽子岳（烏帽子岳）　3 亜麻色の陽射しに包まれる朝の港（馬門漁港）　4 椿（行在所）
5 野辺地川のオシドリ（野辺地川）　6 十符ヶ浦の夕日（十符ヶ浦海水浴場）　7 満開の桜と青空を泳ぐこいのぼり（愛宕公園）　8 新緑のブナ林（烏帽子岳）

夏編

どこか懐かしく、美しい。
野辺地町の風景を切り取ってみました。

9 港の色彩と烏帽子岳（馬門漁港） 10 盛夏のひまわり（畜産研究所放牧地９区） 11 初夏の烏帽子岳（烏帽子岳登山口）
12 赤く染まる漁港（野辺地漁港） 13 海上渡御（野辺地漁港） 14 烏帽子岳から望む夜景（烏帽子岳）

季節によってちがう顔を見せる。
私が見つけたとっておきの野辺地町。

私的野辺地町 秋・冬編

1 星降る町（北野辺地駅）　2 秋の行在所（行在所庭園）　3 黄色に染まったブナ（烏帽子岳）　4 雲と常夜燈（常夜燈公園）

5

6

7

8

9

10

5 明けゆく烏帽子岳（烏帽子岳） 6 Snow storm（常夜燈公園） 7 夜のスキー場（国設野辺地まかど温泉スキー場） 8 天然記念物コクガン（野辺地湾）
9 埋没木のある海岸（有戸北部） 10 ナイタースキー（国設野辺地まかど温泉スキー場）

「笑顔あふれるまち のへじ」の実現へ向けて

描く未来は「笑顔あふれるまち のへじ」。これは「第５次野辺地町まちづくり総合計画後期基本計画」に掲げられた町がめざすべき将来像です。ここでは、後期基本計画に定める６つの分野でまちづくりの姿や施策をご紹介します。

移　住

移住を推進するために、体験移住（お試し移住）への支援を実施しています。首都圏を中心とした地方移住の潜在的希望者等に、農業や漁業の就業体験や町の歴史や文化、さらには地域住民に接してもらう機会を提供するものです。今後は、おすすめ体験ツアーを積極的に企画、ＰＲをして移住希望者の来町を促進し、定住人口の増加に努めます。また、地域おこし協力隊員の制度を有効に活用して、町に必要な外部人材を確保し、活用していきます。

観　光

町では、「野辺地町観光振興計画」を策定し、目標像を「人と食が交わる観光地・のへじ」とし、当町の魅力を牽引する「食」に重点を置くことによる交流人口の増加を図り、商港として栄えていた時代の賑わいを取り戻すための観光振興事業を展開していきます。具体的には、町が所有する復元北前型弁才船「みちのく丸」を観光の核として位置づけ、北前船の一大寄港地として栄えた歴史を生かし、常夜燈公園一帯を拠点（ベイフロント）として整備することとしています。併せて、町の優れた地域・観光資源を最大限に活用し、町内外からの誘客を図るとともに、既存商店街への波及を目指しています。

商　工

町は、「産業創出応援事業」等により、地域経済の活性化や雇用の創出、新規出店の促進による商業機能の充実を図るとともに、商店街が中心となるイベントを支援し集客力の向上を図るなど、商業の活性化に努めています。

工業の面においては、大部分が従業員10人未満の零細な小規模経営であり、内訳は地場の食料品が中心です。

また、工業団地への大規模太陽光発電事業の誘致を図るなど、企業誘致活動にも力を入れています。

4

水産業

町の水産業は、ホタテガイの養殖漁業を中心に底曳網や刺網などの漁船漁業となっています。ホタテガイが全体の95%以上を占め、稚貝出荷から３年間育成した成貝出荷へシフトチェンジし、首都圏をはじめ全国各地へ出荷されています。

また、なまこの出荷にも力を入れており、一時は資源減少から漁獲量が大幅に落ち込みましたが、回復基調にあります。

出荷に関しては、「生産管理出荷情報システム（トレーサビリティーシステム）」をいち早く導入し、ホタテガイ輸出（HACCP）対応の養殖場、漁船、岸壁として登録も済ませ、消費者への安全・安心な生産品として付加価値の向上に努めています。

今後は、漁場の環境保全に努めるとともに、漁港漁場整備等を推進しながら、国内外への販路拡大に努め、漁獲量の増大や漁家収入の増収を図っていくこととしています。

一方、内水面漁業については、国策であるサケの人工ふ化放流事業は県内でも規模が大きく、重要な位置づけとなっています。

農　業

町の農業は、春から夏にかけて吹く「ヤマセ」による冷涼な気候でよく育つこかぶ、ながいもを中心に展開されています。地元農協が取扱う野菜類は、近年では10億円以上の販売額を達成しており、特にこかぶは、野辺地ブランド「野辺地葉つきこかぶ」として販売されています。

一方で、農地の集約化と認定農業者・集落営農組織の育成・支援に取り組んできましたが、将来にわたり良質な食料の安定供給と農業が持つ多面的機能が維持されていくためには、意欲ある担い手の確保・育成が課題となっています。

今後は、食の安全に配慮した自然循環型農業の展開や農地の流動化と集積、農地の保全、安定的な収入の確保、地産地消への取り組みなど、営農の様々な課題への対応が求められています。

1 幼稚園児によるサツマイモの植え付け
2 3 朝市の様子
4 5 常夜燈フェスタの様子
6 保育園児によるサケの稚魚放流

郷土の住みやすさを実現する

道路整備

町には、国道が２路線、県道が７路線、町道が376路線あり、町道の総延長142.9ｋｍのうち舗装率は、57.1%となっています（平成29年4月1日現在）。これまで道路整備については、狭隘区間や未舗装区間の解消、側溝の改修、歩道の確保等を中心に整備を進めてきましたが、今後は、より町民の利便性と生活環境の改善を図り、また、幹線道路については、通学路を中心に歩道の整備を進めます。

雪対策

県内有数の豪雪地帯であり、冬期間の町民の安定した生活の確保に向けた対策が重要な課題となっています。今後の対策として、除排雪機械の更新や除排雪体制の強化・充実に努めるとともに、歩行者の安全を確保するため、歩道除雪の拡充、強化を図ります。高齢者や障がい者世帯の除雪については、近所の助け合い等、お互いに助け合う組織作りが重要です。

都市計画

望ましいまちづくりを推進していくために、地域固有の自然、歴史、生活文化、産業などの地域特性や上位計画・関連計画を踏まえ、住民意向を反映しつつ、土地利用の在り方や交通体系、都市施設、市街地の整備の在り方など総合的に判断し、将来のまちづくり形成の基本的な方針を策定します。

生活排水処理対策

生活排水処理対策については下水道事業を休止しており、合併処理浄化槽による汚水処理となっています（平成29年８月現在）が、今後は、合併処理浄化槽を含めた持続可能な汚水処理対策を検討することとしています。

町営住宅

良好な住環境づくりのために、町営住宅の修繕・改修を行い、定住人口の増加を図るため、住宅の供給を促進します。町では、みどりヶ丘団地、駅前団地、前平団地の３つの町営住宅に、総計６４世帯分の住居を管理・運営しています。

環境衛生

町では、一般廃棄物処理基本計画に基づき、可燃ごみ、粗大ごみ、資源ごみについては収集後、北部上北広域事務組合「クリーン・ペア・はまなす」で、不燃ごみについては町の「一般廃棄物最終処分場」で処理が行われています。また、し尿及び浄化槽汚泥については、「下北地域広域行政事務組合」で処理が行われています。今後も、循環型社会推進のため３Ｒ運動を展開し、ごみの減量化やリサイクル率の向上を推進していくとともに、適正分別の徹底や小型家電・衣類のリサイクル推進を図り、環境保全に努めていきます。

郷土の人の生命（いのち）と暮らしを守る

消防・防災

常備消防は、北部上北広域事務組合（野辺地町、横浜町、六ヶ所村）により組織され、当町に消防本部が設置されています。上十三消防指令センターが平成28年４月から本格運用を開始したことに伴い、管内の車両の動態及び災害状況が迅速に把握できるようになり、出動時間の短縮、出動体制の充実が図られるようになりました。

消防団においては、条例定数の95％を維持していますが、今後も団員の確保と育成を図るとともに、消防施設の整備・更新に努めていく必要があります。

「地域防災計画」については、平成27年３月に原子力編の修正、平成28年10月に風水害等災害対策編、地震・津波災害対策編の修正を行いました。また、平成28年3月に野辺地町防災ガイドマップを作成し、毎戸配布しました。今後は国、県の動向を見ながら随時修正を行い、「地域防災計画」に基づきながら防災訓練を行うなど、災害対策に努めていきます。

防犯・交通安全

町では、「犯罪のない、安全で住みよい野辺地町」実現のために、一人ひとりの防犯意識の高揚を図るとともに、関係機関・団体と連携を深めながら、各種施策を推進し、防犯指導隊等の育成に努めています。

平成8年に全国で最初に「交通安全に関する条例」を制定し、これまで様々な交通安全対策に取り組んできました。今後も野辺地警察署及び交通安全関係団体と更なる連携を深め、交通安全啓発活動、交通事故防止活動に努めていきます。

1 除雪の様子　2 野辺地駅周辺　3 目ノ越方面から望む下北縦貫道路と八甲田連峰　4 野辺地消防署に配備されている水槽付きポンプ車
5 野辺地町防災ガイドマップ　6 消防フェアの様子　7 消防団員による纏振り　8 交通事故防止街頭活動

郷土の人の身体（からだ）と心を守る

子育て支援・児童福祉

町には、町立児童館が１館、私立保育園が５園あります。少子高齢化が進む中、子育て家庭に対して経済的負担の軽減を図り、安心して子どもを産み育てられる環境を整えるため、「子ども・子育て支援事業計画」を策定し、子育て支援を充実します。具体的には、保育園や幼稚園に同時入所する第２子以降（多子世帯）の保育料の無料化を実施するとともに、利用者からのニーズの高い延長保育や地域子育て支援センターを開設し、多面的な子育て支援を実施します。

また、保護者が安心して子育てや就労ができる環境を整備するため、放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ事業）を充実します。

障がい者（児）福祉

地域社会における共生の実現に向けて、障がい福祉サービスの充実等障がい者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するため、「第４期障がい者福祉計画」を策定し、ニーズに応じた適切な支援を行います。具体的には、日常生活に対する障がい福祉サービス、医療面での自立支援医療や補装具、自立した日常生活、社会生活を送るための地域生活支援事業等、多面的に支援を行います。

高齢者福祉

高齢者の生活を支えるためには、元気な状態で要介護状態になりにくくすることが大切です。町ではこれまで介護予防教室の中で利用者の状態に応じた情報提供を実施してきました。この教室で学んだ方々が中心となり、地域において楽しく人との交流を通し、介護予防運動の輪を広めるとともに、地域で高齢者を支える機運を醸成します。

1 保育園での活動　2 介護予防教室　3 高校生による高齢者宅訪問事業
4 公立野辺地病院　5 ポールウォーキング　6 乳児健診の様子

保健・医療

町の保健事業は、健康増進センターを中心に健康増進計画である「健康のへじ21計画」に基づき推進しており、健康寿命の延伸を重点に、妊婦・乳幼児から高齢者まで全世代を対象に健康づくり事業を強化しています。

成人保健事業では、課題である生活習慣病の予防・改善をより重視し、メタボリックシンドローム対策に主眼を置いた特定健康診査・特定保健指導の他、運動習慣の定着や食生活改善のため、減る脂～（ヘルシー）運動クラブ等の運動事業や減る脂～クッキング等の栄養改善事業を行っており、町民一人ひとりが自分の健康に関心を持ち、自ら健康づくりを習慣化できるよう支援しています。

町民の死亡原因の1位であるがんについても、早期発見・早期治療のため定期的ながん検診の受診と異常が発見された場合の精密検査受診の徹底を図っています。

母子保健事業では、安心安全な出産・育児期の親子の健康増進と育児不安の解消、疾病等の早期発見に向けて、妊婦・乳幼児健康診査や訪問指導、健康相談のほか、各種子育て支援事業を実施しています。

特に、町内に出産可能な医療機関が無いことから、妊婦健診等交通費助成事業や妊婦救急時対応情報提供システム等を実施し、妊婦支援体制の強化に努めています。

また、こころの健康づくりでは、傾聴ボランティアの育成や「ふわふわ言葉」の啓発活動を通じて、傾聴理念の地域への浸透を推進しています。

医療機関については、野辺地町・横浜町・六ヶ所村の2町1村で運営する公立野辺地病院のほか一般診療所が5か所、歯科診療所が8か所あり、地域医療を担っています。

高齢化に伴い医療需要がますます高まるなか、身近な地域で安心して医療が受けられる体制を確保するとともに、近隣の医療機関との一層の連携強化を図っていきます。

郷土をますます愛し育む「人財」を育

学校教育

町には、私立幼稚園が1園、保育園が5園、小学校が3校、中学校が1校、高等学校が2校ありますが、少子化に伴い、馬門小学校においては完全複式学級となりました。

平成27年度に小学校の校舎等の耐震補強工事が完了し、子どもたちの安心安全の確保に努めていますが、児童の減少も著しいことから、より一層の教育環境の充実に向けて、今後3小学校の統合について基本的な方向性を決定する必要があります。

また、「ふれあい教育の日」を継続し、親子のふれあいを大切にする機会を設け、家庭教育の充実を図りながら、学校とPTAなど保護者をはじめ、地域の連携により町全体で、郷土をますます愛し育む「人財」を育てる環境づくりを推進します。

学校教育においては、子どもたちが社会の中で自立するための力を身に付け、国内外で活躍できる「人財」として成長できるよう「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」これら3つの調和がとれた育成を重要な教育課題としており、町民憲章で謳われている、町の豊かな自然や伝統・文化を生かした学習を取り入れながら、子どもたちが郷土に誇りを持ち、多様性を尊重し、創造力豊かで新しい時代を主体的に切り拓く児童生徒を育成します。

学校教育の施策として、学力向上指導員の配置や生徒指導、学校施設の安全安心の充実など「授業」「道徳教育」「特別活動」「体育・健康教育」「生徒指導」「特別支援教育」「研修」「教育環境」の8つの充実と体験を通した勤労観・職業観の育成や外国語指導助手の配置、ICT教育により「キャリア教育」「エネルギー・環境教育」「国際化、情報化に対応する教育」の3つの推進を図っています。

1 野辺地中学校大運動会　2 若葉小学校の授業風景　3 野辺地高校の授業風景
4 成人式　5 スキー大会　6 ブックスタートの様子

てる

社会教育

「第２期野辺地町教育振興計画」では、郷土をますます愛し育む「人財」を育てることを目標に掲げ、社会教育では、次代を担う青少年の育成のため、町の特色を活かした体験活動の充実に努めています。毎月20日を「ふれあい教育の日」「家族ふれあい読書デー」としている取り組みでは、イベントの開催、家読（うちどく）の推進と子どもの読書活動の充実に努めています。今後も家庭教育力の向上を支援するとともに、学校・家庭・地域が協働し、地域全体で育む環境づくりを進め、社会全体の教育力向上を目指します。

また、町民一人ひとりの主体的な学習活動と社会参加活動を支援するため、町民大学講座や公民館講座「みんなの教室」など各種講座を継続します。

男女共同参画社会の推進では、地域活動の実践者の育成に努め、男女がともに個性や能力を発揮できる社会環境づくりを推進します。

スポーツ

町民のスポーツ活動を支援する体制として、総合型地域スポーツクラブ設立に向けた取り組みを推進し、子どもたちが自ら進んでスポーツに親しむ態度や能力を身につけ、健康の増進と体力の向上が図られるよう、スポーツの振興に努めます。

競技スポーツでは、町体育協会、各競技団体等と連携を深め、選手強化策の充実を図るため、東北・全国大会に出場する小・中学生への大会派遣費や遠征、合宿等への助成などを行います。また、全国・県大会規模のスポーツ大会を誘致し、競技力向上に努めます。

歴史・文化・芸術

町には、国指定重要文化財の「板状立脚土偶」「赤漆塗木鉢」など遺跡からの出土品をはじめ、固有の歴史や伝統が息づく有形・無形の文化財が残されています。これらの文化財を保護していくとともに、伝統文化の継承や町民の文化活動を促進します。

郷土づくりを進める組織とシステムを創る

議　会

行政を公正かつ円滑に進めるための議決機関である議会は、町民から選ばれた12人（平成29年8月現在、欠員2人）の議員によって構成されています。

一人ひとりの責任は重大で、年４回の定例会や必要に応じて開かれる臨時会の場で、予算や条例などを審議しています。

議会には、総務と建設産業保健衛生の２常任委員会が設置されています。議員はいずれかに所属し、それぞれの分野で条例・請願・陳情などの付託案件の審査や調査活動を行います。近年は、特に広域行政の重要性が高まりつつある中、積極的な地域間交流を推進しています。また、県内町村の中でいち早く議会基本条例を制定し、議会報告会を年２回以上開催するなどしながら、町民に開かれた議会を目指しています。

議長　古林　輝信

副議長　蛯名　猛

熊谷　晴雄

江渡　正樹

中谷　謙一

野坂　充

岡山　義廣

小坂　徹

戸澤　栄

野村　秀雄

行　政

平成26年11月に国を挙げて少子高齢化や人口減少等に取り組むことを目的とした「まち・ひと・しごと創生法」が公布され、町でも自立、創生に向けた行財政基盤づくりが求められています。

行財政運営については、時代の変化や町民ニーズに的確に対応しつつ、中長期的な視点から事務事業の見直し、職員力の向上と意識の高揚に努め、幅広い町民サービスを提供できる体制づくりを進めていきます。

また、健全で計画的な財政運営を図るため、緊急度や優先度などを的確に判断した、長期的な財政計画の策定に努めます。

歴代議長

	氏名	就任年月日	退任年月日
初代	西　村　豊　寿	昭和22年 5月19日	昭和26年 4月29日
2	吉　田　林　治	昭和26年 5月16日	昭和30年 4月30日
3	沖　津　与　助	昭和30年 5月11日	昭和34年 4月30日
4	柴　崎　申　松	昭和34年 5月14日	昭和38年 4月30日
5	中　谷　権　太	昭和38年 5月15日	昭和39年 1月25日
6	熊　谷　　達	昭和39年 3月12日	昭和41年10月29日
7	飯　田　勝千代	昭和41年11月26日	昭和42年 4月30日
8	木　村　正　孝	昭和42年 5月16日	昭和46年 4月10日
9	中　谷　権　太	昭和46年 5月13日	昭和49年 9月26日
10	村　山　半次郎	昭和49年 9月27日	昭和50年 4月30日
11	三上山　長太郎	昭和50年 5月 9日	昭和54年 4月30日
12	熊　谷　　達	昭和54年 5月 9日	昭和58年 4月30日
13	山　村　力　哉	昭和58年 5月10日	昭和62年 4月30日
14	畑　中　勇次郎	昭和62年 5月12日	平成 3年 4月30日
15	古　沢　磯　吉	平成 3年 5月13日	平成 7年 4月30日
16	上　野　定　治	平成 7年 5月12日	平成11年 4月30日
17	奥　寺　幸　雄	平成11年 5月12日	平成15年 4月30日
18	髙　田　光　雄	平成15年 5月13日	平成19年 4月30日
19	上　野　定　治	平成19年 5月11日	平成23年 4月30日
20	梅　村　　毅	平成23年 5月16日	平成27年 4月30日
21	倉　岡　健次郎	平成27年 5月12日	平成28年 8月 5日
22	古　林　輝　信	平成28年 9月 5日	現　　在

歴代副議長

	氏名	就任年月日	退任年月日
初代	野　村　英次郎	昭和22年 5月19日	昭和26年 4月29日
2	沖　津　与　助	昭和26年 5月16日	昭和30年 4月30日
3	升　沢　洋　一	昭和30年 5月11日	昭和34年 4月30日
4	野　坂　行　男	昭和34年 5月14日	昭和38年 4月30日
5	原　　富　蔵	昭和38年 5月15日	昭和42年 4月30日
6	村　山　半次郎	昭和42年 5月16日	昭和46年 4月30日
7	成　田　良　一	昭和46年 5月13日	昭和50年 4月30日
8	原　子　要　助	昭和50年 5月 9日	昭和54年 4月30日
9	髙　橋　芳　雄	昭和54年 5月 9日	昭和58年 4月30日
10	安　村　鉄　雄	昭和58年 5月10日	昭和60年 5月 8日
11	木　明　亀三郎	昭和60年 5月 9日	昭和62年 4月30日
12	近　藤　武　雄	昭和62年 5月12日	平成 3年 4月30日
13	輪　達　良　蔵	平成 3年 5月13日	平成 7年 4月30日
14	泉　澤　保　雄	平成 7年 5月12日	平成11年 4月30日
15	戸　澤　　栄	平成11年 5月12日	平成15年 4月30日
16	畑　中　　肇	平成15年 5月13日	平成18年 6月19日
17	四　戸　弘　志	平成19年 5月11日	平成23年 4月30日
18	倉　岡　健次郎	平成23年 5月16日	平成27年 4月30日
19	古　林　輝　信	平成27年 5月12日	平成28年 9月 4日
20	蛯　名　　猛	平成28年 9月 5日	現　　在

（左から）教育長 淺利能之、町長 中谷純逸、副町長 松山英樹

- 町長
  - 副町長
    - 総務課
    - 防災安全課
    - 地域戦略課
    - 財政課
    - 税務課
    - 町民課
    - 介護・福祉課
    - 健康づくり課
    - 建設環境課
    - 農林水産課
  - 会計管理者
    - 会計課
    - 水道課
- 教育委員会
  - 教育長
    - 学校教育課
      - 学校給食共同調理場
    - 社会教育・スポーツ課
      - 公民館
      - 図書館
      - 歴史民俗資料館
      - 体育館
- 議会
  - 事務局
- 農業委員会
  - 事務局
- 選挙管理委員会
  - 事務局
- 監査委員
  - 事務局

歴代教育長

	氏名	就任年月日	退任年月日
初代	神　守夫	昭和27年10月 1日	昭和28年 9月30日
2	沼宮内　哲四郎	昭和29年10月 1日	昭和31年 9月30日
3	佐藤　弘志	昭和31年10月 1日	昭和35年 9月30日
4	横浜　荘二	昭和35年10月 1日	昭和38年 2月29日
5	熊谷　彦三	昭和38年 3月 1日	昭和41年 8月 4日
6	若山　好美	昭和41年 8月 5日	昭和61年11月 7日
7	沢田　高	昭和62年 2月 4日	平成元年 3月31日
8	中村　正久	平成元年 4月 7日	平成４年 9月30日
9	〃	平成 4年10月 1日	平成８年 9月30日
10	吉田　昌彦	平成 8年10月 1日	平成13年 9月30日
11	〃	平成13年10月 1日	平成15年 3月31日
12	髙田　安雄	平成15年 4月 1日	平成21年 9月30日
13	古田　力也	平成21年10月 1日	平成25年 9月30日
14	淺利　能之	平成25年10月 1日	現　在

歴代町長

	氏名	就任年月日	退任年月日
初代	角鹿艮右衛門	明治30年 8月28日	明治32年11月29日
2	野村　新八郎	明治33年 1月29日	明治33年 5月18日
3	井山　保太郎	明治33年 6月14日	大正 5年 2月18日
4	篠田　龍夫	大正 5年 4月12日	大正 8年 2月 9日
5	武士　忠一郎	大正 8年 5月22日	大正10年 5月31日
6	石黒　熊三郎	大正10年10月 6日	昭和 4年10月 5日
7	三浦　道太郎	昭和 4年10月12日	昭和11年 3月17日
8	島谷　清四朗	昭和11年 6月15日	昭和19年 6月14日
9	工藤　省三	昭和19年 7月22日	昭和21年 7月21日
10	熊谷　達	昭和21年 9月29日	昭和22年 3月30日
11	吉田　昌三郎	昭和22年 4月 5日	昭和26年 4月 4日
12	〃	昭和26年 4月23日	昭和30年 4月 9日
13	中村　亀四郎	昭和30年 4月30日	昭和33年 9月19日
14	吉田　昌三郎	昭和33年11月 8日	昭和37年11月 7日
15	山根　恒次郎	昭和37年11月 8日	昭和41年11月 7日
16	〃	昭和41年11月 8日	昭和45年11月 7日
17	〃	昭和45年11月 8日	昭和49年11月 7日
18	馬場　春雄	昭和49年11月 8日	昭和53年11月 7日
19	〃	昭和53年11月 8日	昭和57年11月 7日
20	〃	昭和57年11月 8日	昭和61年11月 7日
21	安田　貞一郎	昭和61年11月 8日	平成 2年11月 7日
22	〃	平成 2年11月 8日	平成 3年10月 2日
23	小坂　郁夫	平成 3年10月27日	平成 7年10月26日
24	〃	平成 7年10月27日	平成11年10月26日
25	〃	平成11年10月27日	平成15年10月26日
26	亀田　道隆	平成15年10月27日	平成19年10月26日
27	〃	平成19年10月27日	平成23年10月26日
28	中谷　純逸	平成23年10月27日	平成27年10月26日
29	〃	平成27年10月27日	現　在

歴代助役

	氏名	就任年月日	退任年月日
初代	野坂　英次郎	明治32年 5月 1日	明治44年 5月10日
2	野坂　彦治	明治44年 5月11日	大正 8年 2月10日
3	野坂　林八郎	大正 8年 6月28日	大正12年 6月27日
4	渡辺　芳三	昭和 3年 7月29日	昭和10年 2月10日
5	島谷　清四郎	昭和10年 2月10日	昭和11年 6月14日
6	村山　金作	昭和14年 3月 6日	昭和16年 4月 8日
7	松本　秀一郎	昭和16年 6月20日	昭和19年 9月 6日
8	中村　亀四郎	昭和19年12月 9日	昭和22年 1月17日
9	飯田　勝千代	昭和22年 1月21日	昭和22年 4月10日
10	飯田　六郎	昭和22年 6月 6日	昭和30年 6月 5日
11	山根　恒次郎	昭和30年 6月 7日	昭和33年11月 1日
12	杉山　福一郎	昭和33年12月23日	昭和37年12月22日
13	横浜　荘二	昭和38年 3月 1日	昭和42年 2月28日
14	〃	昭和42年 3月 1日	昭和46年 2月28日
15	浜中　正三郎	昭和46年 5月13日	昭和50年 5月12日
16	〃	昭和50年 5月13日	昭和54年 5月12日
17	野村　義郎	昭和54年 6月18日	昭和58年 6月17日
18	〃	昭和58年 6月18日	昭和60年 6月25日
19	一瀬　力男	昭和60年 9月 1日	昭和61年11月 7日
20	乙部　憲次	昭和62年 2月20日	平成 3年 2月19日
21	磯野　静久	平成 3年 6月21日	平成 5年 3月31日
22	杉山　繁夫	平成 5年 6月21日	平成 9年 6月20日
23	増田　祐三	平成 9年 6月21日	平成13年 6月20日
24	〃	平成13年 6月21日	平成15年10月26日
25	古田　力也	平成16年 4月 1日	平成19年 3月31日

歴代副町長

	氏名	就任年月日	退任年月日
初代	古田　力也	平成19年 4月 1日	平成20年 3月31日
2	金澤　年男	平成20年 4月 1日	平成23年10月26日
3	杉田　三生	平成23年12月 1日	平成26年 3月31日
4	松山　英樹	平成26年 4月 1日	現　在

野辺地町
資料編

contents

28 野辺地町 120 年の歩み

33 名誉町民

NOHEJI DATA FILE

34 人口・世帯

教育

35 財政

36 産業

37 福祉

生活環境

防災・交通

明治30年 町制施行祝賀記念

野辺地町百二十年の歩み

「野辺地」という地名がはじめて文献に見えるのは、南北朝時代の建武2年（1335）ですが、町内には寺ノ沢遺跡（縄文前期）、槻ノ木遺跡（縄文中期）、枇杷野遺跡（縄文後期）、陣場川原遺跡（縄文後期）などの遺跡が分布しており、これらのことから、すでに先史時代から人々がこの地に住んでいたことが知られています。 立地的に古くから交通の要衝として発展してきましたが、特に延宝年間（1673～1680）から明治の初年にかけて、豪商と呼ばれた地元の野村治三郎や野坂勘左衛門、さらには北陸の銭屋五兵衛などの千石船が往来し、日本海沿岸諸港並びに大坂、函館などと盛んに交易し、盛岡藩有数の商港として繁栄しました。明治22年4月1日の市町村制施行によって野辺地村、馬門村、有戸村が合併して野辺地村となり、同30年8月28日には町制を施行し野辺地町となりました。平成29年8月28日に町制施行120周年を迎えます。

明治 30. 8.28	野辺地村が野辺地町と改められ初代町長に角鹿艮右衛門が就任した
	この年の戸数1,151戸、人口7,603人、男3,882人、女3,721人
明治 32. 3. 3	野辺地高等小学校が新築され、野辺地尋常高等小学校は野辺地尋常小学校と改称された
明治 39	第1回青森県競走馬会が野辺地大平競馬場で盛大に開かれた
明治 41. 3. 31	野辺地尋常小学校を城内尋常小学校とし、尋常小学校を1校増設した
4. 1	増設校の名称を新町尋常高等小学校とし、男女別学とした
明治 42. 6. 3	第五日本海丸が北海道にしん漁場の帰り野辺地港で船火事をおこし228人が溺死し、
	遭難者の合同慰霊祭が常光寺で行われた
明治 44	日露戦争忠魂碑が愛宕山頂に建てられた
大正 元. 11. 16	町に公衆電話が開通した
大正 2. 2. 11	一般加入電話開通。加入者14人
大正 4. 3.25	第12回衆議院議員。野村治三郎が当選した
大正 10. 2. 10	新町小学校が落成した
9.25	大湊線が開通した
大正 11	盛岡銀行野辺地支店が開行した
大正 12. 1. 17	青森県スキークラブ野辺地支部が発会した
大正 15. 4. 7	県立野辺地中学校(旧制)が開校した
6.30	郡役所が廃止された
昭和 4. 3.28	野辺地町立実科高等女学校が新設された
昭和 6. 6. 1	キリスト教青年会は城内に幼稚園を開園した
10. 15	野辺地大平競馬場が廃止された
	第五十九銀行が一時休業した
	盛岡銀行が廃業した
昭和 7. 6	野辺地保育園が開かれた
6. 20	常光寺に私立幼稚園和光園が開かれた
昭和 8. 11. 13	新町に野辺地郵便局が新築された
	新町に北奥羽病院が設立された
昭和 13. 10.30	全国中学校柔道大会で野辺地中学校が優勝した
昭和 16. 4. 1	城内小学校を野辺地国民学校と、新町小学校を野辺地女子国民学校と改称した
12. 8	太平洋戦争が始まった
昭和 17. 2. 6	神宮スキー大会で野辺地中学校は斥候競技で優勝した
5.28	城内の野辺地町役場庁舎を廃止し、本町の野村邸を新庁舎として移転した
昭和 19. 2	野辺地臨港線が開通した
12. 3	野辺地電話中継所が開所された
昭和 20. 4. 1	野辺地国民学校と野辺地女子国民学校を合併し、野辺地国民学校となった
昭和 21. 2. 16	野辺地婦人会が発足した
昭和 21. 4	目ノ越開拓が始まる。29戸が入植した
11. 24	野辺地町体育協会が発会した
昭和 22. 4. 1	六、三、三制による町立野辺地中学校が開校した
4. 5	第1回民選町長選挙。吉田昌三郎が当選した
5. 3	野辺地簡易裁判所と野辺地地区検察庁が設置された
7. 21	野辺地公民館が開館し、第2回県下気象展覧会が開かれた
9. 1	野辺地税務署が廃止された
昭和 23. 4. 1	県立野辺地高等学校の男女共学が実施された
4	野辺地農業協同組合が創立された
昭和 24. 4. 29	野辺地町自治警察署が開庁した
5. 24	野辺地漁業協同組合が創立された
5. 31	弘前大学教育学部野辺地分校が設置された
12. 20	「町のたより」創刊号が発行された
昭和 25. 10. 22	文部省斉藤技官が明前チャシ竪穴群を調査した

明治37年 日露戦争の出征兵士見送り

大正14年　鳴沢から烏帽子岳を望む

昭和4年　新町尋常小学校

昭和17年　下町組祇園囃子

昭和 26. 3. 15	青森青年師範学校が開校した
11. 25	野辺地病院が開院した
昭和 27. 5. 27	下町大火。大平一帯110戸が焼けた
9. 27	野辺地町森林組合が創立された
11. 1	野辺地町教育委員会が発足した。教育長神守夫
昭和 29. 12. 27	野辺地町役場庁舎が落成した
昭和 30. 3. 26	日本燃料株式会社が操業を開始した
12. 1	若葉小学校が開校した
昭和 31. 8. 18	国営北部上北機械開墾の起工式を行った
昭和 33. 12. 20	北野辺地駅が開業した
昭和 35. 3. 18	弘前大学教育学部野辺地分校が閉校した
昭和 36. 9. 8	野辺地港の灯台が竣工した
11. 24	町章を制定した
昭和 37. 4. 9	野辺地小学校に給食室が完成し、完全給食を実施した
昭和 38. 10. 3	野辺地高等学校が新築された
昭和 39. 2. 28	馬門温泉ホテルが開館した
昭和 41. 3. 20	弘前大学教育学部付属野辺地中学校が閉校した
4. 1	野辺地中学校・馬門中学校・有戸中学校を統合し町立野辺地中学校となった
昭和 42. 4. 1	野辺地町消防署が設置された
7. 1	上水道が全町に通水した
8. 27	野辺地電報電話局が落成しダイヤル式となった
10. 12	野辺地ゼネラル株式会社が創業した
昭和 43. 5. 16	十勝沖地震が発生した。当町は重軽傷者26人、住家全壊13戸などの被害
昭和 44. 7. 20	野辺地・函館間を東日本フェリー株式会社のフェリーボートが運航を開始した
昭和 45	烏帽子岳に電波無人中継局ができた。塵芥焼却場が竣工した
9. 30	野辺地駅前広場拡張工事が完成した
昭和 48. 3. 20	野辺地小学校、若葉小学校の新校舎が完成した
5. 12	光星学院野辺地工業高等学校が開校した
昭和 49. 6	有戸小学校新校舎が完成した
昭和 50. 5. 25	本町に歩行者天国がスタートした
昭和 51. 3	木明小学校新校舎が完成した
4. 17	中央公民館がオープンした
5. 3	故鈴木逸太氏、八代故野村治三郎氏、故松本彦次郎氏、故野村七録氏に名誉町民の称号が授与された
11. 3	町立体育館の落成式が行われた
昭和 52. 10. 7	第32回国民体育大会（あすなろ国体）が青森県で開催。当町はハンドボール競技会場となった
昭和 53. 9	野辺地町第2次総合開発計画基本構想を策定した
昭和 54. 1	野辺地ストッキング株式会社が操業を開始した
3	馬門小学校新校舎が完成した
3	野辺地町保健センターが完成した
6. 1	行政無線広報施設が完成し放送が開始された
8. 28	町民憲章を制定した
昭和 55. 3. 31	馬門公民館が完成した
6. 31	烏帽子岳に野営場が完成した
	この年、冷害により農作物が大打撃を受けた
昭和 56. 4. 1	町が指定金融機関制度を採用した
	小中野保育所、馬門保育所、歴史民俗資料館、勤労青少年ホーム、ことば・きこえの教室（若葉小学校）が落成した
8	台風15号による被害額が6億円となった
昭和 57. 2	消防事務組合の消防本部、野辺地消防署の合同庁舎が完成した
4. 1	野辺地地区環境整備・福祉事務組合の特別養護老人ホーム「野辺地ホーム」が完成し、業務を開始した
昭和 58. 4	公営駅前住宅、勤労者体育センターが完成した

昭和29年　野辺地町役場

昭和30年頃　常夜燈

昭和32年　海上渡御

昭和35年　紙芝居を見る子どもたち

昭和58. 7. 12	老人福祉センターがオープンした
10. 2	第1回陸奥湾一周駅伝大会（県下61市町村参加）が開催され、町の部3位、総合で8位となった
昭和59. 5	児童館、有戸地区学習等供用センターが供用開始された
7. 1	故江口乙矢氏により、野辺地音頭に踊りが振付され、この日の町民大運動会で披露された
10.26	北昭興業株式会社野辺地チップ工場が操業を開始した
	愛宕公園が創設100年を迎えた
昭和60. 3. 10	健康ウォーク歩くスキーの集いを県南で初めて開催した。出場者は県内各地から550人
5.25	町立図書館が供用開始された
6.23	国際森林年にちなみ、青森県・野辺地町・サントリー株式会社の三者による合同植樹祭が行われた
12. 7	株式会社エクセルファッションが操業を開始した
昭和61. 2	野辺地町行政改革大綱を策定した
5. 18	町営球場がオープンした
7	寝たきり老人等の入浴サービスを開始した
9. 9	サントリー株式会社と町で工場建設のための開発協定書に調印。準備工事に着手した
昭和62. 8.28	町制施行90周年式典が行われた
10. 4	第5回むつ湾一周駅伝大会町の部で初優勝を飾った
11. 7	産業まつりが開催された
	野辺地まかど温泉スキー場にペアリフトが新設された
12	市町村別交通事故防止コンクールで町の部でトップの成績を収めた
昭和63. 1. 4	役場の事務OA化が本格稼働をした
4.22	サントリー株式会社からウイスキー原酒貯蔵庫2棟建設に着工したいとの申し入れがあった
5	陸上競技場が供用開始された
7.27	サントリー株式会社は、ウイスキー原酒貯蔵庫建設の地鎮祭が行われた
10	当町最初の融・流雪溝が浜町に整備された
平成元. 11	運動公園テニスコート6面が完成した
平成 2. 3	柴崎地区健康レクリエーション施設にバンガロー4棟が完成した
7. 5	サントリー株式会社の貯蔵庫第1号棟、管理棟、保安棟が完成した
	野辺地町に最初のウイスキー原酒が搬入された
9. 19	第3次野辺地町総合計画を策定した
11. 19	生涯学習まちづくり推進本部を設立した
平成 3. 3. 4	野辺地高校スキー部（全国高校スキー大会女子総合優勝）と
	野辺地中学校（東北中学校スキー部リレー競技男女アベック優勝）の合同祝賀パレードが行われた
3	第2次野辺地町国土利用計画を策定した
4. 8	野辺地地区斎場が供用開始された
平成 4. 7. 1	観光物産PRセンターがオープンした
8	町道観音林脇線が供用開始された
11.24	故江口乙矢、故江口隆哉兄弟に名誉町民称号が授与された
平成 5. 10. 4	故江口乙矢氏がふるさと特別公演を行った
	この年、農作物は冷害により大打撃を受けた
平成 6. 4. 1	愛宕コミュニティセンター及び烏帽子コミュニティセンターがオープンした
12	町営ヒュッテがオープン。「あったかハウスまかどの森」と命名された
平成 7. 4. 1	下水道事業に着手した
4	森林総合センターがオープンした
8	サントリー野辺地貯蔵場を一般公開した
12	スキー場に第3リフトが設置され上部に1,300メートル延長された
平成 8. 4. 1	野辺地町CI事業着手宣言をした
5	海の家がオープン。「マリンハウス十符ヶ浦」と命名された
9.20	全国初の野辺地町交通安全条例が「セーフティアップ条例」として施行された
11. 1	中央公民館が文部大臣賞を受けた
16	町立野辺地中学校創立50周年式典が行われた

昭和37年　集団就職列車

昭和39年　東京オリンピック聖火リレー

昭和42年　野辺地消防署庁舎

平成 8. 12	屋内温水プールがオープン。「サン・ビレッジのへじ」と命名された
平成 9.　2. 25	第1回CI町民フォーラムが行われた
4.　1	町道鳥井平・松ノ木線が供用開始された
8. 28	町制施行100周年記念式典が行われた
	野辺地町CIコミュニケーションマークとスローガンを発表した
	町の「花」・「鳥」・「木」を制定した
平成 10. 2	当町出身の長浜一年氏、長野オリンピックに出場した
	当町出身の四戸龍英氏、長野パラリンピックに日本選手団の主将として出場した
	野辺地町中心街活性化事業（中央公民館駐車場整備）を実施した
	地域振興券交付事業を実施した
平成 11	町財政再建5カ年計画を実施した
平成 12. 8. 28	「男女共同参画都市」野辺地宣言を行った
平成 13	健康増進センターが完成した
平成 14	第3次町行財政改革大綱を策定した
	「健康のへじ21」を策定した
平成 15	町議会議員定数を18人から16人に削減した
平成 16	有戸小学校・木明小学校が若葉小学校へ統合した
	下北縦貫道路「野辺地ハーフIC・野辺地北IC」の9.1ｋｍが開通した
平成 17	下北縦貫道路「野辺地IC・野辺地ハーフIC」まで、4.1ｋｍが完成し、全体で13.2㎞が開通した
	のへじ祇園まつり夜間運行が開始された
平成 18. 5	当町出身の一戸剛氏、齋藤慎弥氏、トリノオリンピックに出場した
7	野辺地港湾埠頭緑地帯が「のへじ潮騒公園」と命名された
10	駅前から新町までの商店街に街路灯を設置した
平成 19. 4	町議会議員定数を16人から14人に削減した
6	常夜燈公園が完成した
8. 28	町制施行110周年記念式典が行われた
9	第20回全国スポ・レク祭トランポリン競技が町立体育館で開催された
平成 20. 2	野辺地ウィンドファームが創業を開始した
7	旧野村家住宅離れ（行在所）が国登録有形文化財に登録された
平成 21. 4	町立保育所が民間移譲された
9	町指定文化財である板状立脚土偶がロンドン大英博物館に展示された
平成 22. 7	むつ湾の高水温によるホタテ貝が大量へい死した
10.10	愛宕公園と大坂城残石記念公園（香川県土庄町）とで友好公園を締結した
12. 7	東北新幹線八戸-新青森間が開業した
	並行在来線八戸-青森間がJRから青い森鉄道株式会社へ移管した
12.16	第5次野辺地町まちづくり総合計画を策定した
平成 23. 3. 11	東日本大震災が発生した
8	西光寺シダレザクラが県天然記念物に指定された
平成 24. 9. 6	町指定文化財の板状立脚土偶が国重要文化財に指定された
平成 26. 3	野辺地中学校新校舎が完成した
平成 26. 3. 31	復元北前型弁才船「みちのく丸」の無償譲渡を受けた
8. 21	町指定文化財の赤漆塗木鉢が国重要文化財に指定された
平成 27. 4	町議会議員定数を14人から12人に削減した
平成 28. 8. 24	第4次町行財政改革大綱を策定した
10. 31	産直施設がオープン。「のへじ活き活き常夜燈市場」と命名された
平成 29. 8. 28	町制施行120周年を迎える
9	第21回北前船寄港地フォーラム in のへじを開催

昭和43年　野辺地中学校新校舎

昭和44年　フェリー就航式

昭和47年　札幌オリンピック

昭和47年　第２回県下少年スキー大会

昭和48年　青森県立野辺地高等学校

名誉町民

窮民を助けることを使命とし、町の産業振興にも大いに貢献。

第8代/野村 治三郎氏

1877年(明治10)～
1949年(昭和24)

明治33年23歳の若さで8代目として家督を相続、野村家代々の「救民施与」の家訓を受継ぎ、ことあるごとに町の窮民に救援の手をさしのべ、その仁慈の徳行は数知れない。

また、野辺地町産馬組合長、農会長、蚕糸組合長、青森県農工銀行取締役、上北銀行、野村銀行頭取などの要職につき、工場誘致、養蚕の奨励、農林漁業の振興と町の産業の覚醒発展に大いに貢献した。

さらに、大正4年からは衆議院議員として政界へ進出し、4期国政へ、大正10年からは町議会議員として2期町政に参与した。

勲四等及び勲三等瑞宝章を受章。

国際的な視野に立ち、後進教育に生涯を捧げた偉大なる史学者。

松本 彦次郎氏

1880年(明治13)～
1958年(昭和33)

明治36年第一高等学校を経て京都帝国大学法科に入学、その後東京帝国大学国史科に移り、明治41年に卒業、大正4年にはアメリカのシカゴ大学に留学、それからは慶応義塾大学を始めとして第六高等学校、東京文理科大学の教授、弘前大学、横浜国立大学の講師を務めた。

学問上の著作は数多くあり、日本史学会を担う数多くの学者を育てた。当町が生んだ他に誇りうる偉大な学者である。

昭和18年に従四位勲二等瑞宝章を受章。

地域医療に重きを置き、青森県の保健衛生向上に大きく寄与。

鈴木 逸太氏

1882年(明治15)～
1980年(昭和55)

明治42年仙台医学専門学校卒業、翌年野辺地町に診療所を開業。町の嘱託医として町民の診療にあたり、また、青森県医師会理事・顧問、上北郡医師会々長・顧問など多くの医療機関の要職につき、広く青森県の保健衛生の振興に尽くした。

特に学校医として、66年有余の永きにわたり児童生徒の衛生思想の普及、疾病の治療、保健衛生の管理向上に大きく貢献した。

昭和5年青森県知事表彰、昭和28年文部大臣賞、昭和34年藍綬褒章、昭和40年勲五等双光旭日章、昭和51年社会貢献者表彰、昭和52年青森県文化賞。

あふれる情熱で、陸奥湾ホタテ産業の隆盛を実現した水産の父。

野村 七録氏

1893年(明治26)～
1973年(昭和48)

大正5年に第一高等学校を経て、東京帝京大学理学科に入学、大正9年に同大学の大学院を卒業し、第一高等学校講師を始めとして、後に東北帝国大学教授、昭和33年から昭和37年まで弘前大学学長をつとめた。水産学の基礎研究に情熱を燃やし、海洋生物学、養殖学では日本の権威者である。

特に水産学の研究分野の中で「陸奥湾産帆立貝の増殖研究」の諸論文は、今日、陸奥湾におけるホタテ貝隆盛の基礎を築いたものであり、学問研究を現実社会の向上のため尽くしたその功績は大なるものがある。

昭和10年勲六等瑞宝章、昭和13年勲五等瑞宝章、昭和14年勲四等瑞宝章、昭和17年従四位、昭和41年勲二等旭日重光章、昭和42年青森県褒賞。

旺盛な創作活動で、現代舞踊の定着と発展の礎を築いた芸術家。

江口 隆哉氏(本名・捨松)

1900(明治33)～
1977(昭和52)

町立城内小学校代用教員となるが、浪曲、狂言、義太夫、三味線、日本舞踊などに興味を持ち稽古に努め、昭和4年に高田雅夫・原せい子舞踊研究所に入所、内弟子として舞踊に専念する。

昭和6年宮操子氏と結婚し、舞踊研究のためドイツに渡り、ウィングマン舞踊学校に学び、昭和8年帰国。その後、舞踊研究所を開設し舞踊活動を続け、自主公演や合同公演等を通して旺盛な創作活動を展開するとともに、後進の指導育成にも尽力され、わが国における現代舞踊の定着と発展の基礎を築き上げ、外国のモダンダンスを日本独特の現代舞踊として芸術性を高めた。

昭和35年青森県褒賞、昭和41年紫綬褒章、昭和46年勲四等旭日小綬章、昭和52年従五位。

兄の意志を継ぎ、現代舞踊を通じて郷土の発展に大きく貢献。

江口 乙矢氏(本名・紀世松)

1911(明治44)～
2004(平成16)

兄江口隆哉・宮操子夫妻の門下生となり、厳しい修行を積みながら活発な舞踏活動を展開する。同門の研究生今村須美子氏と結婚、大阪において独立し、舞踏研究所を開設する。数多くの優れた作品を発表し激賞を浴び、さらには、現代舞踊という極めて難解な作品を日本の民話や地方の風俗などを取り入れ、簡素で判りやすい作品にして大衆的人気を得た。

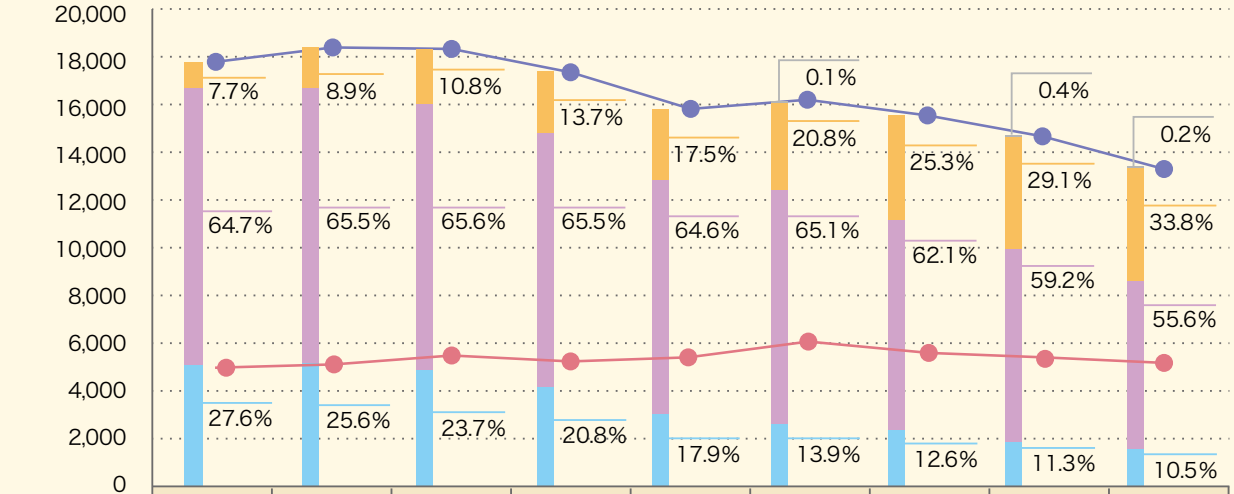
また、旺盛な創作活動や後進の指導育成に尽力し、現代舞踊の定着と発展のため多大な貢献の果たした。

当町においては、郷土公演を上演するとともに、野辺地音頭に振り付けしその普及に努めるなど、郷土をこよなく愛した。

昭和48年青森県褒賞、昭和54年紫綬褒章、昭和60年勲四等旭日章。

人口・世帯

■人口・世帯数



	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
人口総数(人)	17,994	18,419	18,351	16,750	15,969	16,012	15,218	14,314	13,524
世帯数(世帯)	5,028	5,494	5,722	5,556	5,665	6,057	5,880	5,766	5,565
構成割合	0～14才			15～64才			65才以上		不詳

資料　国勢調査

■人口動態

単位：人

	自然動態			社会動態		
	出生	死亡	増減	転入	転出	増減
平成２年	158	121	37	714	1,009	-295
平成７年	130	145	-15	772	793	-21
平成12年	120	146	-26	715	730	-15
平成17年	118	172	-54	465	654	-189
平成22年	89	195	-106	419	471	-52
平成27年	68	188	-120	427	468	-41

資料　青森県人口推計月報

教育

■小学校・中学校・幼稚園の概況

	小学校			中学校			幼稚園数	
	学校数	学級数	児童数	学校数	学級数	生徒数	園数	園児数
平成23年	3	31	706	1	14	370	2	85
平成24年	3	30	682	1	14	367	2	73
平成25年	3	32	652	1	13	356	2	69
平成26年	3	29	626	1	12	347	1	79
平成27年	3	31	598	1	12	339	1	76

資料　学校教育基本調査

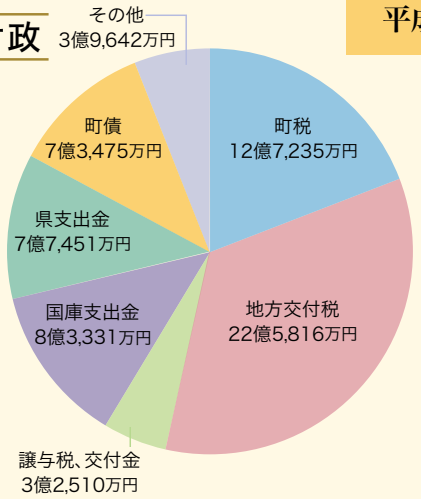
■図書館　項目別状況

	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
蔵書冊数(冊)	86,033	87,535	89,057	90,707	92,468
貸出延人数(人)	12,801	13,383	13,969	12,608	10,816
貸出資料数(冊)	32,691	34,331	34,991	37,108	38,292
行事参加者数(人)	3,944	3,592	3,832	3,091	3,278
登録者数(人)	6,080	6,308	6,505	987	1,471

資料　町立図書館

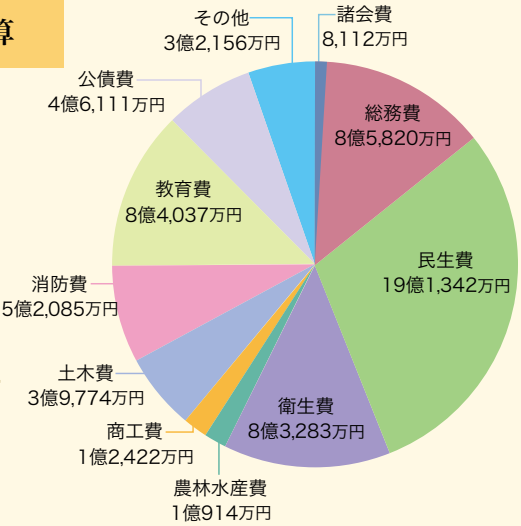
財政

平成27年度一般会計決算



歳入
65億9,460万円

歳出
64億6,056万円



単位：千円

■一般会計決算状況

	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
町税	1,244,351	1,247,059	1,329,388	1,315,199	1,272,351
地方譲与税	57,768	54,191	51,675	49,081	51,507
利子割交付金	2,897	2,645	2,716	2,490	2,095
配当割交付金	1,161	1,301	2,817	5,614	3,935
株式等譲渡所得割交付金	229	242	3,058	2,333	2,755
地方消費税交付金	132,003	128,651	127,555	156,454	251,095
自動車取得税交付金	11,965	14,837	15,459	6,338	8,770
地方特例交付金	20,075	3,989	3,727	3,362	3,453
地方交付税	2,317,414	2,202,585	2,176,696	2,178,701	2,258,162
交通安全対策特別交付金	1,928	1,789	1,699	1,543	1,488
分担金及び負担金	74,631	74,774	122,716	122,889	110,063
使用料及び手数料	55,454	56,455	62,173	60,133	58,386
国庫支出金	540,742	697,856	1,425,731	583,360	833,313
県支出金	633,418	696,042	750,514	783,090	774,509
財産収入	6,396	32,857	14,869	8,784	15,753
寄附金	3,273	2,226	2,415	17,698	15,557
繰入金	38,448	227,925	270,190	400,702	43,824
繰越金	181,005	11,914	104,071	121,365	65,145
諸収入	98,234	123,760	69,705	64,953	87,687
町債	541,531	693,775	1,125,891	736,320	734,748
歳入合計	5,962,923	6,274,873	7,663,065	6,620,409	6,594,596

	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
議会費	93,231	82,854	90,017	91,190	81,121
総務費	709,854	726,770	737,735	779,497	858,200
民生費	1,681,019	1,704,480	1,736,187	1,814,276	1,913,424
衛生費	1,123,230	1,196,213	1,017,396	1,050,261	832,833
労働費	4,054	5,627	4,267	4,191	4,154
農林水産費	107,423	102,642	78,040	95,381	109,139
商工費	157,812	120,946	85,482	89,009	124,215
土木費	402,642	391,210	417,177	340,592	397,742
消防費	409,195	409,608	433,735	541,873	520,845
教育費	609,413	971,894	1,644,356	1,088,943	840,371
災害復旧費	6,581	0	12,190	11,193	0
公債費	389,375	384,942	498,656	427,947	461,114
諸支出金	257,179	73,617	786,462	220,912	317,403
歳出合計	5,951,008	6,170,803	7,541,700	6,555,265	6,460,561

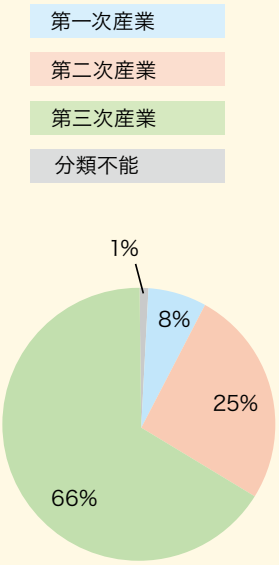
産業

■産業別就業人口

単位：人

		平成２年	平成７年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
第一次産業		907	816	626	595	546	492
	農業	386	368	329	309	284	243
	林業	85	97	38	54	54	63
	漁業	436	351	259	232	208	186
第二次産業		2,169	2,259	2,519	1,950	1,702	1,609
	鉱業	3	7	4	5	3	7
	建設業	1,200	1,340	1,642	1,129	926	885
	製造業	966	912	873	816	773	717
第三次産業		4,324	4,528	4,767	4,631	4,206	4,133
	卸売小売業	1,606	1,621	1,615	1,262	946	905
	金融・保険業	163	129	114	98	99	78
	不動産業	45	32	18	23	32	41
	運輸通信業	466	440	408	345	347	259
	電気・ガス・水道業	50	42	32	15	20	21
	サービス業	1,727	1,977	2,258	2,585	2,480	2,516
	公務	267	287	322	303	282	313
分類不能		0	6	0	8	15	50

資料　国勢調査



平成27年産業別就業人口割合

■農家数・農家人口

	総農家数(軒)	専業農家(軒)	兼業農家(軒)		農家人口(人)		
			第1種兼業	第2種兼業	男	女	計
平成２年	516	82	33	401	1,026	1,153	2,179
平成７年	396	100	30	266	735	849	1,584
平成12年	274	37	34	203	509	582	1,091
平成17年	264	51	24	189	234	261	495
平成22年	181	52	18	111	99	103	202
平成27年	73	31	12	30	56	65	121

資料　農林業センサス

■漁業経営体制

単位：経営体

	個人				会社	漁業協同組合	漁業生産組合	共同経営	官公庁・試験場等	計
	専業	第1種兼業	第2種兼業	小計						
平成５年	87	68	17	172	0	0	0	0	0	172
平成10年	74	51	12	137	0	0	0	0	0	137
平成15年	60	45	19	124	0	0	0	0	0	124
平成20年	94	10	7	111	0	0	0	0	0	111
平成25年	50	43	2	95	0	0	0	0	0	95

資料　漁業センサス

■商業経営体制

	総数(軒)	常時従業者数(人)	年間商品販売額(万円)	売場面積(㎡)
平成３年	343	1,431	2,330,600	22,326
平成６年	315	1,409	2,451,968	21,905
平成９年	284	1,310	2,413,126	20,779
平成14年	304	1,599	2,375,263	26,464
平成16年	279	1,460	2382,275	25,835
平成19年	251	1,270	1919,324	27,003
平成26年	165	1,003	2062,900	24,650

資料　商業統計調査

■製造品出荷額等

	事業所数(軒)	従業者数(人)	製造品出荷額(万円)
平成３年	56	838	903,517
平成６年	54	751	837,553
平成９年	48	751	796,355
平成14年	27	574	600,649
平成16年	26	560	590,456
平成19年	19	560	601,906
平成26年	12	423	465,075

資料　工業統計調査

福祉

■保育園の概況

	園数	分園数	園児数(人)
平成23年	4	1	350
平成24年	4	1	348
平成25年	4	1	358
平成26年	4	1	356
平成27年	4	1	344

資料　介護・福祉課

■介護認定者数

単位:人

	要支援1	要支援2	要介護						合計
				要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	
第1号 65歳～74歳	17	6	56	15	16	11	3	11	79
75歳以上	91	74	628	174	162	83	104	105	793
第2号	2	4	14	6	0	2	2	4	20

資料　介護・福祉課　平成28年3月末現在

■国民健康保険の概況

	加入世帯数(世帯)	被保険者数(人)	給付件数(件)	保険者負担額(千円)
平成27年	2,531	4,007	1,137,676	1,567,693

資料　町民課

生活環境

■ごみ搬入状況

単位:t

	可燃系	粗大系ごみ	資源系ごみ			不燃ごみ	年間総収集量
			缶類	ペットボトル	その他		
平成23年	4,584.29	424.43	49.05	15.45	1.13	724.58	5,798.93
平成24年	4,697.72	557.29	46.65	15.05	3.31	703.23	6,023.25
平成25年	4,598.91	524.53	42.58	13.64	3.91	750.91	5,934.48
平成26年	4,558.36	508.47	39.01	13.15	2.83	1,393.13	6,514.95
平成27年	4,352.02	498.19	36.26	12.01	1.69	1,637.11	6,537.28

資料　建設環境課

■町道の概況

町道			橋梁(橋)
延長(km)	舗装延長(km)	舗装率(%)	
142.9	81.6	57.10	30

資料　建設環境課　平成29年4月1日現在

防災・交通

■救急車出動・火災発生状況

単位:件

	救急出動件数	火災発生件数		
			建物	その他
平成23年	585	5	2	3
平成24年	603	7	4	3
平成25年	526	3	2	1
平成26年	550	6	5	1
平成27年	543	8	8	0

資料　北部上北広域事務組合　消防年報

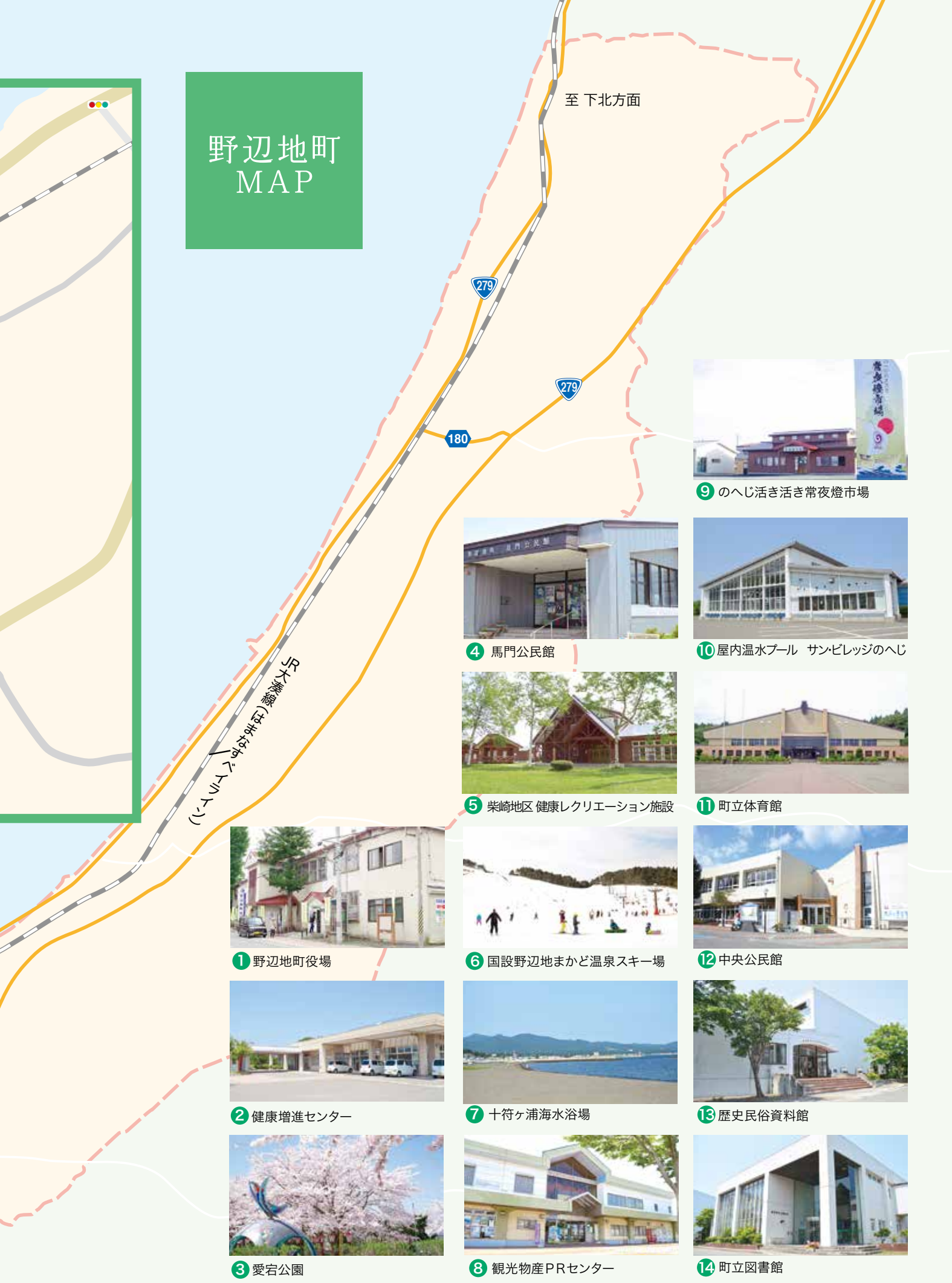
■人身事故発生状況

	人身交通事故		
	発生件数(件)	死者(人)	傷者(人)
平成23年	30	0	42
平成24年	49	2	56
平成25年	31	0	37
平成26年	28	1	35
平成27年	16	0	21

資料　野辺地警察署

中心部
拡大
野辺地湾
十符ヶ浦海水浴場 7
のへじ潮騒公園
荷さばき場
常夜燈
漁業協同組合
常夜燈公園
9 のへじ活き活き常夜燈市場
北野辺地駅
若葉小学校
野辺地中学校
屋内温水プール
サン・ビレッジのへじ 10
JR大湊線(はまなすベイライン)
警察署
町立図書館
JAゆうき青森野辺地支所
郵便局
2 健康増進センター
13 14 12
歴史民俗資料館
中央公民館
1 野辺地町役場
野辺地小学校
至 青森方面
青い森鉄道
愛宕公園 3
町立体育館 11
観光物産PRセンター 8
運動公園
八戸学院野辺地西高等学校
青森県立野辺地高等学校
公立野辺地病院
野辺地駅
馬門公民館 4
馬門小学校
柴崎地区健康レクリエーション施設 5
6 国設野辺地まかど温泉スキー場
中心部
愛宕公園
野辺地駅
野辺地町
運動公園
ヒバ・ブナの混合林
ブナの原生林
烏帽子岳
ヒバの原生林
至 十和田方面

野辺地町 MAP



9 のへじ活き活き常夜燈市場

4 馬門公民館

10 屋内温水プール　サン・ビレッジのへじ

5 柴崎地区 健康レクリエーション施設

11 町立体育館

1 野辺地町役場

6 国設野辺地まかど温泉スキー場

12 中央公民館

2 健康増進センター

7 十符ヶ浦海水浴場

13 歴史民俗資料館

3 愛宕公園

8 観光物産ＰＲセンター

14 町立図書館

町章

野辺地の頭文字である「の」の字を表徴するとともに、躍進を連想させる波頭をあわせ図形化したもので、躍進、発展、団結を表現したものです。
（昭和36年11月24日制定）

町のキャラクター

野辺地町特別観光大使「じ～の」。
町のシンボルである常夜燈をかたどった帽子をかぶったデザインが特徴。
（平成24年６月制定）

野辺地町へのアクセス

お車でお越しの方
東北自動車道 青森中央I.C･･･青森自動車道 青森東I.C･･･国道4号（約1時間）
八戸自動車道八戸I.C･･･国道45号･4号（約1時間30分）
むつ方面･･･はまなすライン（国道279号）

電車でお越しの方
青森･･･青い森鉄道（約45分）
八戸･･･青い森鉄道（約45分）
むつ･･･JR大湊線（約50分）
東京･･･東北新幹線（約3時間20分）･･･七戸十和田駅から車で約20分
函館･･･北海道新幹線（約1時間）･･･新青森駅･･･青森･･･青い森鉄道（約45分）

飛行機でお越しの方
東京/羽田　（空路約75分）･･･青森空港･･･バス（約35分）青森駅･･･野辺地
東京/羽田　（空路約70分）･･･三沢空港･･･バス（約15分）三沢駅･･･野辺地
大阪/伊丹　（空路約95分）･･･青森空港
札幌/新千歳（空路約45分）･･･青森空港
名古屋/小牧（空路約80分）･･･青森空港

高速（夜行）バスでお越しの方
東京（バスタ新宿）･･･しもきた号（約11時間）･･･野辺地
※毎週木･金･土曜日運行
東京（バスタ新宿）･･･えんぶり号（約11時間）･･･野辺地
※季節運行

笑顔あふれるまち のへじ
NOHEJI TOWN GUIDE
野辺地町勢要覧 2017

平成29年8月

発行：野辺地町
〒039-3131　青森県上北郡野辺地町字野辺地123番地1
☎0175-64-2111（代）　FAX0175-64-9594
http://www.town.noheji.aomori.jp/
企画･編集　野辺地町総務課･町勢要覧作成委員会

写真提供　私的野辺地町応募者

平成28年8月1日から翌年3月3日まで、本誌に掲載する野辺地町の美しい写真「私的野辺地町」を公募したところ、11人の方から計70点のご応募をいただきました。ご応募いただいた写真は本誌14ページ「私的野辺地町」のほか、表紙･紙面各所に掲載しております。ご応募いただきました皆様、誠にありがとうございました。心よりお礼申し上げます。

写真提供者（順不同 敬称略）
柴崎公徳（宮城県仙台市）、山田昭二（東京都大田区）、奈良岡秀和、佐藤明、高沢岩男、須藤一朗、四戸巧、柴崎邦仁、中村修一、他２人（以上 野辺地町）

野辺地町町民憲章

私たちの町は、恵まれた自然と先人より受けついだ
文化の香りたかい町です。
私たちは、心をあわせて「真実と友愛のあふれる明るく
住みよい町」をつくるために、この憲章を定めます。

一、　私たちは
　　烏帽子岳のような
　　誇り高い文化と教育の町をつくります。

一、　私たちは
　　野辺地川のような
　　清い心と美しい町をまもります。

一、　私たちは
　　十符ヶ浦のような
　　大きい望みとゆたかな町をめざします。

一、　私たちは
　　愛宕山のような
　　温かい福祉と健康な町をきずきます。

一、　私たちは
　　人の和を大切にし
　　活力のみなぎる町づくりをすすめます。

（昭和54年8月28日制定）

野辺地町民歌

作詞　横浜正大
作曲　清野健　中村卓三

一、　潮かおる　潮かおる　北の浜辺と
　　歌人が　歌人が　想いをよせし
　　十符ヶ浦　港とひらけ
　　はなやかな　文化伝えぬ
　　その誇り　ここに結びて
　　要なる　地の利生かさん

二、　雪を呼ぶ　雪を呼ぶ　烏帽子が峰よ
　　湧きやまぬ　湧きやまぬ　馬門の温泉よ
　　あかあかと　燃ゆる暖炉の
　　語らいに　希望ぞこもれ
　　その希望　ここに合わせて
　　躍進の　町を築かん

　　唇に　ほほえみあれや
　　眉根には　強き意思を
　　野辺地よ　まなざし聡く
　　さきがけて　未来を呼ばん

120
野辺地町
町制施行120周年